

平成 30 年度事業計画

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町7番地2

目 次

はじめに

I 囲碁普及事業(公益目的事業)

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 囲碁対局環境の提供
- 4 囲碁普及と囲碁指導
 - 4-1 青少年等への囲碁普及
 - 4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導
 - 4-3 海外への囲碁普及
- 5 段級位認定
- 6 囲碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の囲碁大会の開催
 - 6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催
 - 6-3 アマチュア国際大会開催
 - 6-4 アマチュア国際大会への参加等
- 7 表彰
- 8 囲碁関係情報提供
- 9 囲碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町囲碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業(収益事業1)
- 2 不動産賃貸事業(収益事業2)
- 3 販売品、書籍事業(収益事業3)

III 管理部門

- 1 コンプライアンス
- 2 受取寄付金の維持拡大と有効活用
- 3 事務の効率化による経費の削減
- 4 「囲碁大使」の拡充
- 5 「100周年ビジョン」に向けて

はじめに

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供などの事業を国内外で実施する。

平成 30 年度における事業計画及び予算は次の通りとする。

I 囲碁普及事業(公益目的事業)

1 棋戦事業

棋戦は、囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。棋戦の様子は、新聞での速報や囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビ・インターネットで中継され、全国の囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化の振興に寄与している。また、地方で開催される挑戦手合や棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好者や子どもたちの交流の場として、対局を直に見る機会を設けるほか、解説会や指導碁など、ファンイベントを同時に開催する。海外棋戦やインターネット棋戦などを含めた平成 30 年度予定の棋戦の概要は以下の通りである。

(1) 棋聖戦(第 43 期 読売新聞社)

予 選:アマチュア4名を含む全棋士が参加する、ファーストトーナメント予選を実施し、勝ち上がり 32 名が C リーグに出場する。

リーグ戦:上位から順にSリーグ(6名)、Aリーグ(8名)、Bリーグ(8名×2組)、Cリーグ(32名の変則リーグ)を行い、各リーグの優勝者がパラマス方式による挑戦者決定トーナメントを行う。各リーグの上位2~6名は上位リーグに昇格し、逆に各リーグの下位2~6名は下位リーグに降格する。

挑戦手合:七番勝負(4勝先取)を実施し棋聖位を決定。敗者は次期Sリーグ戦から出場。

(2) 名人戦(第 43 期 朝日新聞社)

予 選:全棋士が参加し、4段階の予選を行い、リーグ入り(3枠)をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦:9人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。上位 6 名が残留、3名が陥落(次期最終予選からの出場。)

挑戦手合:七番勝負(4勝先取)を実施し名人位を決定。敗者は次期リーグ戦から出場

(3) 本因坊戦(第 74 期 毎日新聞社)

予 選:全棋士が参加し、4段階の予選を行い、リーグ入り(4枠)をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦:8人による総当たり戦を実施し第1位者が挑戦者になる。上位 4 名はリーグ残留、リーグ陥落者4名は次期最終予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負(4勝先取)を実施し本因坊を決定。敗者は次期リーグ戦から出場

(4) 王座戦(第 66 期 日本経済新聞社)

予 選:全棋士が参加し、本戦出場の枠をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦:シード棋士(前期決勝進出者 2 名とタイトルホルダー)が加わり 16 名が王座への挑戦権をかけた本戦トーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負(3勝先取)を実施し王座位を決定。敗者は次期本戦戦から出場

(5) 天元戦(第 44 期 新聞三社連合)

予 選:全棋士が参加し、本戦出場 28 名 + α をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦:シード棋士(前期準決勝進出者 4 名とタイトルホルダー)が加わり天元への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負(3勝先取)を実施し天元位を決定。敗者は次期本戦から出場

(6) 碁聖戦(第 43 期 新聞囲碁連盟)

予 選:全棋士が参加し、本戦出場 24 名 + α をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦:シード棋士(前期準決勝進出者 4 名とタイトルホルダー)が加わり碁聖への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負(3勝先取)を実施し碁聖位を決定。敗者は次期本戦から出場

(7) 十段戦(第 57 期 産経新聞社)

予 選:全棋士が参加し、本戦出場 16 枠をかけたトーナメント戦を実施。

本 戦:シード棋士(前期準決勝進出者 4 名)を加えた 20 名で十段への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負(3勝先取)を実施し十段位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦(第 25 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)

アマチュア 20 名を含む全棋士で予選を行う。前期優勝者と予選通過者、タイトル保持者の計 16 名で本戦トーナメントを実施し、優勝者を決定する(決勝戦は京都開催)。

(9) 阿含・桐山杯日中決戦(第 20 期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗)

日本と中国の桐山杯優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定。第 20 期は、日本で開催の予定。

(10) 新人王戦(第 43 期 しんぶん赤旗)

25 歳以下の初段から六段までの棋士で予選を行い、32 名によるトーナメント戦を実施する。決勝戦は三番勝負で優勝者を決定。

(11) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦(第 66 回 NHK)

選抜棋士 50 人によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定する。

(12) テレビ囲碁アジア選手権(第 30 回 NHK・KBS・CCTV)

日本、韓国、中国3カ国が持ち回りで開催。前年度優勝者とNHK杯、KBS杯、CCTV杯の優勝、準優勝者の計7名によるトーナメント戦を実施し、優勝者を決定する。第 30 回は韓国で開催の予定。

(13) 竜星戦(第 27 期 囲碁将棋チャンネル)

予選:全棋士が参加し、本戦出場 96 名をかけたトーナメント戦を実施。

本戦:96 名を 8 組に分け勝ち抜き戦の後 16 名による決勝トーナメント戦を実施し優勝者を決定。CS放送(囲碁・将棋チャンネル)で放映。

(14) 日中竜星戦(第 5 回 囲碁将棋チャンネル)

日本と中国の竜星戦優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定。第 5 回は日本で開催の予定。

(15) マスターズカップ(第 8 回 フマキラー)

50 歳以上の現役七大タイトルホルダー及び経験者と予選勝ち抜き者 2 名計 16 名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。

(16) グロービス杯 世界囲碁 U-20(第 5 回 グロービス)

日本 6 名、韓国 3 名、中国 3 名、台湾 1 名、欧州 1 名、北米 1 名、タイ 1 名の 20 歳未満の 16 名によるトーナメント戦をグロービス経営大学院で実施し、優勝者を決定。

(17) 女流本因坊戦(第 37 期 共同通信社)

本戦:予選の勝ち上がりと前期ベスト 4、女流タイトルホルダー 24 名によるトーナメント戦を実施。

挑戦手合:五番勝負(3勝先取)を実施し女流本因坊位を決定。

(18) 会津中央病院・女流立葵杯(第 5 回 温知会)

本戦:予選の勝ち上がり、女流タイトルホルダー 8 名によるトーナメント戦を実施

挑戦手合:三番勝負(2勝先勝)を実施し、女流立葵杯を決定。

(19) 女流名人戦(第 30 期 産経新聞社)

本戦:予選の勝ち上がり、前期ベスト 4、女流タイトルホルダーの計 16 名によるトーナメント戦

挑戦手合:三番勝負(2勝先取)を実施し女流名人位を決定。

(20) 女流棋聖戦(第 22 期 NTTドコモ)

本戦:予選を勝ち上がった 16 名によるトーナメント戦。

挑戦手合:三番勝負(2勝先取)を実施し女流棋聖位を決定。

なお、本戦、挑戦手合はCS放送(囲碁・将棋チャンネル)で放映。

(21) 扇興杯女流囲碁最強戦(第 3 回 センコーグループホールディングス)

予選勝ち上がり者と前回優勝者、準優勝者、女流タイトルホルダー 16 名によるトーナメント戦。準決勝、決勝戦は滋賀県近江市で開催し優勝者を決定。

(22) 王冠戦(第 59 期 中日新聞社)

中部総本部所属の棋士で予選を行い 12 名によるトーナメント戦。優勝者が挑戦手合一番勝負に出場。

(23) 広島アルミ杯・若鯉戦(第 12 回 広島アルミニウム工業)

30 歳以下、七段以下の棋士で予選を行い、16 名(前期優勝者、準優勝者はシード)によるトーナメント戦。本戦は広島で開催し、優勝者を決定。

(24)おかげ杯(第9回 濱田総業)

30歳以下の棋士(次年度採用予定者を含む。)で予選を行い、16名(前期優勝者はシード)によるトーナメント戦。本戦は伊勢市で開催し、優勝者を決定。

(25)おかげ杯国際囲碁対抗戦(第5回 濱田総業)

日本・中国・韓国・台湾各国の推薦棋士(男性3名、女性2名)による対抗戦を行い、優勝チームを決定する。伊勢市で開催。

(26)グランドチャンピオン戦

国内各棋戦(女流棋戦含む)における、棋戦優勝者と賞金ランキング上位者によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。優勝者には、「内閣総理大臣杯・賞」「文部科学大臣杯・賞」が授与される。

(27)ワールド碁チャンピオンシップ2019(NTTドコモ、三井住友カード、阪急電鉄、)

日本、中国、韓国、中華台北、欧州のトップ棋士6名による世界1位決定戦。

(28) SENKO CUP ワールド碁女流最強戦(センコーグループホールディングス)

日本、中国、韓国、中華台北、欧州のトップ棋士8名による女流世界1位決定戦

(29)海外棋戦

① LG杯、三星火災杯、農心杯(以上、韓国主催)、春蘭杯(隔年)、百霊杯(隔年)、夢百合杯、黄竜士双登杯世界女子囲碁団体戦、穹窿山兵聖杯世界女子囲碁選手権、農商銀行杯世界女子団体戦、乙級リーグ(以上、中国主催)等の海外棋戦に参戦する。

② 海外棋戦の参戦にあたっては、「GO・碁・ジャパン」ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金による更なるチーム強化等を図り、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すこととする。

本チームは、監督、コーチ並びに賞金ランキング上位者、海外棋戦における成績優秀者、新人王等、及び女流棋士ランキング上位者の中から選出される代表選手により編成する。

2 棋士育成事業

棋士をめざす青少年の養成機関として院生研修を実施するとともに、海外棋戦での活躍に向けて若手棋士の育成を行う。

(1) 院生研修

毎土・日曜日(月8日間)院生研修を実施する。師範の指導のもとクラス別に対戦し、毎月の成績によりクラスの昇降級を行う。この成績上位者と外来受験者を合わせて行われる棋士採用試験を経て棋士となる。また、院生研修日に、タイトル棋士、リーグ入り棋士による解説と検討指導を実施するほか、毎週火、水、金の午後8時から9時30分まで、ネット対局「幽玄の間」において、棋士が院生に対して対局指導を行う。

(2) 若手棋士育成

「GO・碁・ジャパン」メンバーの若手棋士には、海外棋戦へ挑戦させ、海外対局感覚を身につけるとともに、棋力向上の取組を行う。また、ナショナルチームの所属棋士とU

20 棋士による棋力強化対局をネット対局「幽玄の間」を利用して実施する。

(3) 語学・スキルアップ・プラン

加速する囲碁の国際化に対応する為、英語ができ、かつコミュニケーション能力の高い棋士の育成をするため、本プランを実施する。希望する棋士の中から2名を選考し、英会話スクールを受講、また検定試験を受験し、語学力の向上をめざす。

3 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設においてお客様対局場を開設する他、ネット対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に寄与する。

(1) お客様対局室の開設

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設において、お客様対局場を開設し、お客様同士で自由に囲碁の対局が行えるほか、相手のいないお客様には、日本棋院が相手を見つけて、組み合わせ対局を行う。また、入門者向けコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供する。

(2) ネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代・世界の囲碁愛好者が、パソコン及びスマートフォン・タブレット上で手軽に対局を楽しめる環境を提供する。魅力あるサービスを展開し、囲碁普及における中核的な事業として強化していく。

さらに昨年実施した「都道府県対抗戦」も引き続き実施を予定しており、会員の満足度向上に努める。

(3) 貸室・囲碁用品の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー等の開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供するほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等の利用に応じる。

(4) 海外囲碁センターの支援

欧州、北米、南米それぞれに保有する囲碁センターについてヨーロッパ囲碁文化センター(オランダ・アムステルダム)、シアトル碁センター(アメリカ・シアトル)南米本部(ブラジル・サンパウロ)の3カ所は、引き続き現地の囲碁普及団体に囲碁センターの運営を委ね、現地の囲碁普及活動を支援する。

また「岩本北米囲碁基金」(Iwamoto North America Foundation for Go)の創設により米国囲碁協会(AGA)と協力のうえ、北米における囲碁普及活動を支援し、特に今年度から北米と日本棋院間でアウトバウンド、インバウンドの事業を行う。

4 囲碁普及と囲碁指導

囲碁は、集中力・認識力・想像力・コミュニケーション力の向上に優れ、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが福祉、医学、教育界等で認知されてきている。

また、「囲碁と脳に関する研究」(東北大学)でも「囲碁は、子供の自己抑制力を伸ばす」に

とが明らかとなっている。

囲碁の素晴らしさを幅広い世代へ伝えるため、今後も更に普及活動を推進する。また、すべての囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化を普及するため、棋士による指導のほか、普及指導員、地元ボランティアによる囲碁指導を全国で展開する。

4-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求めるため、地方自治体や学校等と協力体制をとり、地域に密着した囲碁普及事業を広く展開する。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 全国の小・中学校で入門囲碁体験教室を開催

棋士等を派遣し指導を行う。また、現地での継続的な開催を支援する。

② ジュニア教室の開催

東京本院、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じた教室を開催する。

③ 「入門・初心者会員」及び入門・初心者向け「囲碁アイランド」により更なる普及の拡大を図る。

(2) 学校教育への囲碁導入

① 「総合学習」伝統文化体験学習の枠を使った正課授業及び部活動等への囲碁導入の支援を行う。

② 学校囲碁指導員講習会の実施による拡充及び指導員養成を行う。

③ 文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進を行う。

④ 高等学校に於ける日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進を行う。

⑤ 「がっこう囲碁普及基金」を有効活用し、学校教育への導入の際の棋士または指導員の派遣、用具支援を行う。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、公益財団法人JKAの青少年健全育成補助(予定)を受け、学校囲碁指導員講習会を全国で展開する。(平成30年度は、昨年度と同じ17会場での開催を予定)

(4) 大学での囲碁授業の展開

① 大学の囲碁授業は平成29年度に39大学に拡大し、今後、50大学を目標に開講促進の活動を実施する。

② 大学での囲碁授業の講師として棋士を派遣するとともに、囲碁授業を円滑に実施するため、講師役の棋士への研修を実施する等支援を行う。

(5) 「がっこう囲碁普及基金」の拡大

幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座(正課・非正課授業等)の促進に活動支援を目的とした「がっこう囲碁普及基金」基金(平成27年4月開始)の維持と拡大を行う。

(6) 法人賛助会員の維持・拡大

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただくもので、子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等に有効に活用しており、会員の維持・拡大を行う。

4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

囲碁の素晴らしさを伝え、囲碁を知らない方への入門指導、囲碁愛好者の棋力向上に向けた指導を行い、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承する。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施する。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努める。

(3) ネット指導碁

日本棋院が運営するネット対局サイト「幽玄の間」上で棋士による指導碁を実施している。遠隔地にお住まいの囲碁ファンも気軽に指導碁を受けられる。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士の派遣を行う。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行う。

平成30年度の棋士派遣は、国内で約1,100件を見込んでいる。

(5) 囲碁未来教室の開催

雑誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援する。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、各県本部・県支部連合会の協力を得て、昨年に引き続き2カ所の県にてイベントを開催する。棋士を派遣し、囲碁愛好者と棋士の交流を深める。イベントを通して囲碁人口の拡大、個人・支部会員等の維持拡大を図る。

また、入門者・初心者を対象とした会員拡大キャンペーンを実施し、更なる個人・支部会員等の維持拡大を図る。

① 個人、支部会員の維持・拡大

② 法人会員の維持・拡大

③ 支部の活性化

囲碁普及と各地の囲碁愛好者の棋力向上を目指し、支部代表者懇談会を全国8箇所で開催する。現地の要望、提案等意見交換を行うとともに、地域の「絆を作り出す力」としてのコミュニティーづくりとしても支部活動を強化していく。

特に、地方の団塊の世代のシニア層を対象とした入門教室を実施し、会員の新規

加入、後継者育成等を推進し、活性化を図る。

(7) 高齢者の脳の活性化と健康を増進させる働きかけ

わかりやすい内容の入門キットを製作するとともに、高齢者を対象とした販路を開拓し、高齢者の脳の活性化と健康増進を図る。

4-3 海外への囲碁普及

文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツの一つとして、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図り、現地囲碁愛好者の棋力向上に寄与する。

(1) 国際囲碁連盟(IGF)との連携

日本棋院は、国際囲碁連盟(IGF)と連携し、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努める。H30年、H31年は日本棋院がIGFの会長国として囲碁の世界普及にまい進する。

(2) 三カ国棋院首脳会議

世界の囲碁界で活躍する日本棋院、中国棋院、韓国棋院の三カ国が出席して本会議を行う。将来にわたり世界中に囲碁を大きく発展させ、広く振興するため、三カ国それぞれの棋院が協力・連携・努力を行う。

(3) 棋士の海外派遣

各官公庁・民間団体等の支援を得て、棋士を海外に派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地高段者への講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努める。

・クロアチア棋士派遣

・アメリカ(シアトル・ワシントン)棋士派遣

・オランダ・アムステルダム棋士派遣

・ドイツ・ベルリン棋士派遣

・US碁コンgres(ウイリアムスバーグ・ヴァージニア州)

・欧州碁コンgres(イタリア・ピザ)

(4) 東京2020応援プログラム

東京2020の参画プログラムとして、囲碁の文化プログラムを実施する。

2018年度は第39回世界アマチュア囲碁選手権戦・東京大会及び「サマー碁キャンプ」を開催し、海外の愛棋家に囲碁の伝統をはぐくんできた日本の囲碁と文化を学ぶ機会を提供する。

5 段級位認定

段級位の認定は棋力の証明となるもので、対局を行う際にはハンディキャップを付与することで、棋力の差がある者同士の対局でも公平に勝敗を競うことが可能となる。

(1) 段級位認定大会

今年度も全国各地で認定大会を開催する。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁、ホームページ、そのほか一般紙に認定問題を掲載し、段級位認定を行う。1回の認定で段級位を申請できる認定問題の配布を2回実施する。

(3) インターネット認定

ネット対局「幽玄の間」を活用した、レーティングポイントによる段級位認定を行う。

6 囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、日本棋院が認可した 613 の支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行う。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした4つの全国大会及び地区大会を開催し、また、各都道府県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行う。

(1) 第 39 回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

全国大会を7月31日～8月1日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。各都道府県大会を勝ち上がった小学生 100 名・中学生約 100 名が出場予定。地方大会においては各都道府県複数の会場での大会開催を呼び掛け、参加校、参加人数増を目指す。〈公益財団法人JKAの青少年健全育成補助(予定)〉

(2) 第 15 回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

全国大会は7月 29 日～30 日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。1チーム3名・学校単位の団体戦で、小学校の部・中学校の部に各 128 校が出場予定。

〈公益財団法人JKAの青少年健全育成補助(予定)〉

(3) 第 42 回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

全国大会は7月 23 日～25 日の3日間、東京の日本棋院で開催予定。約 450 名が出場予定。地方大会においては、昨年度に引き続き、各都道府県複数の会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。

〈公益財団法人JKAの青少年健全育成補助(予定)〉

(4) 第8回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

全国大会は12月 15 日～16 日に岡山県倉敷市で開催予定。都道府県大会において選抜された小学生低学年の部 48 名、小学生高学年の部 48 名の計 96 名がこども棋聖の称号をかけて競う。倉敷市・読売新聞社との共催。

(5) その他の大会の開催

上記の他、昨年に引き続きジュニア囲碁大会、ジュニア囲碁パーク、千代田区こども囲碁大会、ロッテこども囲碁大会などを開催する。

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

- (1) 第 11 回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦
級位戦から名人戦までの9クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会。全国 12 都市で、13 の地方大会を開催し、2019 年 1 月 27 日に京都で全国大会を開いてチャンピオンの座を競う。平成 30 年度は、延 10,000 名参加予定。
- (2) 第 64 回全日本アマチュア本因坊決定戦
各都道府県大会を勝ち上がった選手とシード選手計 64 名が8月 18 日～19 日、日本棋院で行われる全国大会でアマチュア本因坊の称号をかけて競う。
- (3) 第 61 回全日本女流アマ選手権戦
各都道府県大会を勝ち上がった選手 96 名が 2019 年3月、日本棋院で行われる全国大会で日本一を競う。
- (4) 第 56 回女流アマ都市対抗戦
アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦。
女性による1チーム5名の団体戦。全国の各都市持ち回りで開催しており、平成 30 年度大会は東京、新潟等の中から開催地を検討中。全国から約 700 名程度の参加を予定。
- (5) 第 18 回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権
産経新聞社と共催。1チーム 3 名による団体戦。東京と大阪の2会場で実施。2会場の優勝チームは東京で決勝戦を 11 月 23 日に行い、勝利チームに内閣総理大臣杯が授与される。
- (6) 囲碁・将棋チャンネル杯第 40 回世界アマチュア囲碁選手権
囲碁将棋チャンネルとの共催。各都道府県代表が集まる日本代表決定戦は 9 月 15 日～16 日に東京で開催予定
- (7) 都道府県民まつりの開催
各都道府県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的に、また、支部の活性化となるよう推進する。
- (8) 全国規模イベントへの参加
「ねりんピック健康福祉祭」は、11 月 4～5 日に富山県上市町で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として参加、協力を行う。
- (9) その他大会等
1月5日を「囲碁の日」とし、東京本院、関西総本部、中部総本部で打ち初め式を開催する。棋士による記念対局や指導碁等、囲碁ファンの交流の場となるように、また棋力向上につながるような催しを実施する。

6-3 アマチュア国際大会の開催

- (1) 第 39 回世界アマチュア囲碁選手権の開催
世界最高峰のアマチュア囲碁大会で、5 月 3 日～5 月 7 日に東京の日本棋院で開催する。選手は自国の選抜を勝ち抜いて代表出場する。

6-4 アマチュア国際大会への参加等

- (1) アマチュア国際大会への参加
 - ワールドユース囲碁選手権戦
 - ハンファ生命杯少年少女囲碁選手権戦(韓国開催)
 - 世界大学生囲碁選手権戦
- (2) 国際交流の支援及び大会の後援・協力
 - 国際アマチュア・ペア碁選手権大会
 - サマー碁キャンプ
 - INAF囲碁研修
 - 日中交流(特命棋士)
 - 日台交流
 - 世界学生囲碁王座戦
 - 中信証券杯第2回世界電脳囲碁オープン戦

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ表彰する。

- (1) 大倉喜七郎賞
 - 日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する。
- (2) 秀哉賞
 - 二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が囑望される棋士を表彰する。
- (3) 囲碁殿堂表彰
 - 日本棋院創立80周年記念事業として、囲碁殿堂資料館の発足とともに創設し、囲碁史上に多大な業績をあげ、現在の囲碁の隆盛に貢献した方を顕彰(殿堂入り)する。
- (4) その他
 - 上記の他、棋道賞、普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰、特別功労賞、土川賞等の表彰がある。

8 囲碁関係情報提供

日本の伝統文化である囲碁を次代に継承していくため、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を積極的に発信する。

- (1) 雑誌、新聞の発行
 - ① 月刊「碁ワールド」
 - 中級者から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュース、トライアル問題などバラエティーに富んだ内容を掲載する予定。
 - ② 月刊「囲碁未来」

15 級から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための布石、定石の問題、講座、囲碁情報等を掲載する。また囲碁未来教室のテキストとしても活用する。

③ 「週刊碁」

囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座など、幅広い層を意識した多彩な構成とし、国内外の囲碁愛好者へ情報を発信する。

④ 「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として5月に発行予定。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など、平成 27 年一年間の囲碁情報をまとめる。

(2) 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

最新囲碁ニュース(棋戦結果速報)やイベント情報、棋士プロフィールなどの囲碁情報をはじめ、これから囲碁を始めたい方のための簡単入門ページや日本棋院として取り組んでいる囲碁ナショナルチーム「GO・碁・ジャパン」、学校囲碁普及事業などの情報を提供している。また、事業計画、報告や定款など公益法人として必要な情報公開を行っている。なお、英文、簡体中国語、繁体中国語、韓国語での情報提供を行い、世界への情報発信、囲碁普及に努めていく。

② 「幽玄の間」

ネット対局「幽玄の間」では、あらゆる世代のあらゆる地域の人たちが囲碁を楽しめるように、次のような環境を提供している。

- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップ棋戦の棋譜を配信
- ・ネット対局「幽玄の間」で中継された棋譜のアーカイブ提供
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流
- ・都道府県対抗戦などのネットによる囲碁大会の開催

③ 情報会員

情報会員には、主に新棋譜から過去の名局まで、40 年以上に亘る、約4万局の棋譜データを提供している。

④ 電子書籍アプリ

週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、単行本等を電子書籍「e碁BOOKS」、「i碁BOOKS」として配信する。

9 囲碁殿堂資料館

平成 16 年 11 月 15 日に開設し、囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品展示、歴史に残る名棋譜の展示を行う。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、本年度

の事業計画を策定し、積極的に活動推進する。

10-1 有楽町囲碁センター

- (1) 有楽町の東京交通会館「有楽町囲碁センター」は、年末年始以外は年中無休で、ファンの方々に対局場のほか段級位認定大会、棋士による指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校等のサービスを提供している。
- (2) 「有楽町囲碁センター」は、商業地に立地する地の利の良さ等により入場者数が増加している。引き続き、日本棋院の新しい拠点として、利用者に満足かつ愛される囲碁センターを目指し、サービスの向上に努める。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県（大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山）と広島、岡山両県を統轄する。「梅田囲碁サロン」及び会員制の「茶屋町囲碁サロン」を普及拠点に加え、共に運営する。

- (1) 各種大会の開催及び後援（主なイベントは以下の通り）

- 夏休み子ども囲碁フェスティバル
- 尼崎こども囲碁本因坊戦2018
- 第15回寝屋川囲碁将棋まつり
- 第51回歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり
- 比叡山こども囲碁合宿
- 阪急納涼囲碁まつり in 大阪
- 定例段級位認定大会（年5回）
- 級位者大会（年6回）

- (2) 会館事業の充実（梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン）

- 「梅田囲碁サロン」は大阪中心の梅田ターミナルに程近く、立地条件に恵まれ、入場者数は年々微増であるが増えており、今期は25,000名を目指す。サロンは、年末年始以外、年中無休で営業しており、利用者が望む快適な環境改善やサービスを充実させ、さらなる集客を目指し普及に努める。

対局ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日そして有段者の集いを開催する。貸室は囲碁学校、入門教室をはじめ法人各種団体への貸席等の勧誘を行い一層の利用促進に努める。また、販売コーナーでは盤石、囲碁用品そして書籍の品揃えを充実させ利用者の希望に応える。

- 「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトとして大阪茶屋町で運営をしている。当サロンは会員制として運営を行い、個人会員、法人会員のみが利用する新たな顧客ニーズに対応した普及を行う。

- (3) 大学での囲碁講座開設への取組み

平成29年度に開催された大学の囲碁講座は関西圏で3校、中国圏では2校で取り入れられている。今期も引き続き各大学に講座開設の働き掛けを積極的に行い

若者層への普及拡大を行う。

(4) 小中学校への囲碁普及活動の充実

市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、関西の公立小学校の総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂けるよう努める。すでに小学校等で行われている囲碁教室への協力や地域の普及指導員への支援等、関西のこども達への普及をより一層拡大するように努める。

(5) 当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及

関西圏都市部以外の遠隔地域の囲碁普及として、各地域の支部や囲碁団体の協力を得て実施している囲碁大会をさらに拡大し、前年度8地区より1地区増の9地区での開催を目指す。また、この大会により地域との連携を強化し、さらには個人・支部会員等の維持拡大及び支部活動の充実を図り普及に努める。

10-3 中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県(愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西)を統轄する。

(1) 各種大会の主催等(主なイベントは以下の通り)

- 東海地区朝日アマ団体十傑戦
- ジャンボ団体戦
- 中部こども級位者大会
- 会員と棋士囲碁のつどい
- 愛知県・江蘇省青少年囲碁交流

(2) 中部総本部の棋戦等の実施(新聞掲載)

中日新聞社主催「第58期王冠戦」

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

- 指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、充実を図る。
- 院内イベントの充実を図る。
 - ・「10 アンダーの日」
 - ・「級位者の日」、「有段者の日」
 - ・「Happy級位者の日」、「Happy有段者の日」
 - ・チャレンジGO碁kids名古屋の開催
- 入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全12コースの内3コースに午前の部を開講し、女性及び高齢の方々の囲碁ファンより好評を得ている。

(4) 普及活動

- 中部地区の囲碁愛好家からの寄付により、中部青少年普及囲碁基金を活用し、中部地区の高校生を中心とした青少年の囲碁普及活動の推進に努める。
- PTA及び地域ボランティアの協力を得て、小学校の放課後授業への導入を進める。また、中部地区の大学囲碁授業導入に向け積極的に働きかけ、広く囲碁の普

及に努める。

- 北陸地区の囲碁ファンの拡大のために、各県支部連合会の協力の下、囲碁ファン参加イベントを開催し会員の拡大を図る。

Ⅱ 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業(収益事業1)

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、棋力向上の励みとなるよう9級から八段までの免状を発行する。免状には、審査役である棋士の署名がなされる。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を、六段以上の高段位免状保有者には、県師範、公認審判員を申請する権利を付与する。公認審判員の認証には、公認審判員講習の受講と書類審査を行う。

2 不動産賃貸事業(収益事業2)

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4F～6F部分を他法人に賃貸している。

3 販売品、書籍事業(収益事業3)

(1) 販売事業

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行う。また、全国各地でも購入できるよう、通信販売やインターネットを利用したのオンラインショップでの物品販売も実施する。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者に向けた棋力向上の講座、問題集、読み物等の単行本を発行予定。そのほか既刊本を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売する。

(3) 電子書籍

日本棋院が発行した各種紙誌(週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来)及び単行本を電子書籍「e碁BOOKS」、「i碁BOOKS」で配信する。

Ⅲ 管理部門

1 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力する。

内部統制の強化については、「内部統制委員会」を中心に監査の実施及び改善取組みを施しており、継続的に取組み強化を図る。

2 受取寄付金の維持拡大と有効活用

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図る。

(1) 「GO・碁・ジャパン」応援募金の継続

ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金による更なるチーム強化等を図り、「世界で勝てる日本の棋士」の育成を図り、海外棋戦における成績向上を目指す。

(2) 「がっこう囲碁普及基金」の継続と拡大

幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした基金を平成 27 年4月より募金の受付を開始。いっそうの拡大を図る。

(3) 法人賛助会員の維持・拡大

(4) 上記以外の特定寄付金（岩本海外普及基金等）、一般寄付金

3 事務の効率化による経費の削減

日本棋院内のITシステム全般を見直すとともに、各種手続きや業務を見直すことにより、経費の削減に努める。

4 「囲碁大使」の拡充

日本棋院創立 90 周年事業の一環として新設した、財界や著名人の方々に委嘱する「囲碁大使」を更に拡充し、囲碁の魅力の発信等を通し、囲碁ファンの拡大に努める。

5 「100 周年ビジョン」に向けて

囲碁人口の減少、日本棋士の強化、そして財務基盤の劣化。この現状を鑑みて、日本棋院創立 90 周年にあたる平成 26 年に、10 年後の 100 周年に向けたビジョンをどう描くかという構想のもと、「100 周年プロジェクト」を開始した。同プロジェクトは「厳しい現実」を直視して、大胆かつ抜本的な改革を進めないと、囲碁界の未来がない、という強い危機感のもとに、以下の 10 の行動を提言し、実現に向けて取り組んでいる。（別紙）

100周年ビジョンの取組み

〈100周年の姿〉 囲碁人口 500 万人！学校、企業、家庭で老若男女が囲碁を楽しむ。

行動-1 囲碁普及～囲碁人口増大を

(1) 教育への導入

- ・ 幼稚園、小学校授業（放課後含む）の正課授業の拡大
- ・ 大学の囲碁部への支援 ⇒ 全日本学生囲碁連盟との連携強化
- ・ 大学への囲碁講座の拡大

(2) 社会人と女性・高齢者への普及

- ・ 企業新入社員研修等に囲碁を導入
- ・ 囲碁ガールズの拡大
- ・ 碁会所等、他の囲碁団体と連携強化を通して高齢者ファンの増大
⇒ 全日本囲碁協会と連携強化

(3) 草の根囲碁普及活動の支援

- ・ 囲碁の裾野拡大に向け、初心者対象指導法と級位認定の統一
- ・ 囲碁カフェ、朝囲碁ボランティア活動支援
- ・ 普及指導員・学校指導員制度の改革・活性化

〈100周年の姿〉世界トップ 10 に2人、トップ 20 に4人、トップ 50 に 10 人

行動-2 世界で勝てる棋士を数多く育成する

(1) 棋士の登用

- ・ 棋士採用時に社会人としての人格構成を院生師範と強化

(2) 若手棋士の育成

- ・ ナショナルチームの活動強化⇒棋力強化合宿、海外棋戦への積極的参戦
- ・ ジュニアアカデミーによる全国から才能ある人材を集める。

(3) ランキング制度の導入

- ・ 国内ランキング制度の検討⇒IGF ランキング制を参考に継続検討

〈100周年の姿〉 日本棋院会員を 10 万人以上！！

行動-3 大胆かつ抜本的な改革を実施し、財務基盤の確立を

(1) インターネットの普及や経済・社会の変化に即応、意思決定の迅速化を図るため執行部へ外部人材を登用

(2) 棋士の報酬制度を従来以上に囲碁普及への貢献を、重視する棋士の報酬制度のあり方を検討

(3) 職員の人事制度も、収支改善に向け経営環境の変化に対応したインセンティブの働く制度の導入を図る。

(4) 財務基盤強化

- ・棋士の報酬に係る財務分析を行い、将来にむけた対策を検討
- ・会員制度の改革…個人会員・ネット会員を見直し、新たな日本棋院会員を創設

(基本方針)

- イ 無料ID者を棋院会員に取り込む。⇒有料化メニューへの誘導
- ロ 紙面会員の15メニューは、統廃合を整理。また、紙面会員は、高齢層、収支への影響を考慮し、継続するが、減収に歯止めは掛からないので、新サポート会員の拡大を図ることにより減少に歯止め
- ハ 新規会員は、基本的にネット申込会員とする。
「幽玄の間」会員は、魅力のあるサービスの展開を図り収益の拡大を図る。
- ニ、会員拡大、収納管理の効率化、大会申込等の入会システムの改善、物販システム効率化等のためにECサイトの導入を検討
- ホ 囲碁ファンの入り口としてのHPの使い勝手などを継続的に見直す。
 - ・ネット「幽玄の間」を中心にして、小口販売を強化してロングテールでの収入増へ。
 - ・日本棋院ドリームファンディング)による13路盤プロ・アマトーナメント戦実施

〈100周年の姿〉 地域対抗、実業団が加わり、囲碁コンGRESがある。

行動-4 地域対抗・実業団棋戦と囲碁コンGRESの創設

- (1) 地域対抗プロ・アマ棋戦の創設
- (2) 実業団対抗戦の創設
- (3) ジャパン碁コンGRES開催
【2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて】
 - ・世界アマチュア囲碁選手権、サマー碁キャンプの開催などや地域囲碁サミット、地域碁コンファレンスを開催する。
 - ・議員囲碁連盟、行政(文科省、文化庁、東京都庁、外務省等)への取組推進
 - ・世界アマチュア囲碁選手権開催に向けたスポンサー確保
- (4) タイトル戦をファンがより楽しめるような仕組み検討
- (5) 遠隔地の方との対局には、ネット対局を拡大
 - ・「幽玄の間」会員による地域対抗戦の開催など継続実施

〈100周年の姿〉 ネット会員10万人以上、入門から高段者、子どもからお年寄りまで幅広い層が利用している。

行動-5 ネット戦略を描き、幅広い層へアピール

- (1) ネット戦略を構築するため継続的に抜本改革を行う。
- (2) 「幽玄の間」のサービス拡充
 - ・「幽玄の間」会員の拡充のためのサービスメニュー検討、情報会員の見直し
- (3) 入門・初級者戦略
 - ・入門・初心者向けアプリ「囲碁アイランド」(IOS Android) の拡充

(4) ホームページの活用

- ・ホームページの更なる利用向上
- ・大会参加や会員入会、資金決済を念頭に置いたECサイトの導入検討
- ・広報・宣伝機能の充実(専門家の登用検討)

〈100周年の姿〉 囲碁の棋戦結果などが、常にニュースになる。ニコ動、ユーチューブ中継を10万人以上が活用

行動-6 メディア戦略～囲碁の知名度を徹底的に上げる。

- (1) 日本棋院内に専門家によるメディア戦略・広報チームを組成
- (2) 既存メディア(TV、新聞、雑誌)との関係強化
 - ・タイムリーなニュースリリース発信、新聞各社との連携強化(記者発表等)
 - ・スタープレイヤーの積極的掲載・取材による「囲碁」のPR推進
- (3) 新規メディアの開拓
 - ・ツイッター、フェイスブック等のソーシャルメディアも活用
 - ・ニコ動、ユーチューブ等動画の活用
- (4) 漫画、アニメ、ゲームによる囲碁の認知度を高める。

〈100周年の姿〉 東京オリンピック・パラリンピックで囲碁フェスティバルが開催され、ジャパン碁コンGRESSがレガシーとして存続し、世界のGOの中心として日本が輝いている。

行動-7 国際戦略～世界のGOの中心として日本が輝く

- (1) 東京オリンピック・パラリンピックにあわせた囲碁の世界発信
 - ・「サマー碁キャンプ」等のイベントを拡大し、インバウンドを充実
 - ・2018年～2019年の世界アマチュア選手権誘致、2020年オリンピック・パラリンピックでのマインドスポーツメニュー検討と行政への働きかけ
- (2) シアトル、サンパウロ、アムステルダム碁センターの拠点、また、INAF(岩本北米基金)を活用した日本囲碁の世界への普及拡大
 - ・INAFインバウンド・アウトバウンドプログラム実施
 - ・EGCC碁キャンプへの継続協力
 - ・サンパウロ南米本部の新たな体制と普及の拡充(碁センターの運営等)
 - ・USコンGRESS、欧州コンGRESSへ棋士の継続派遣による囲碁普及の拡大
 - ・海外大使館との連携による囲碁普及拡大⇒外務省への協力依頼
- (3) コンテンツを翻訳し日本発囲碁コンテンツを展開する
 - ・HPには英語・中国語・韓国語で訳せる機能導入提供
 - ・AI棋戦や世界棋戦での英訳等中継発信

〈100周年の姿〉 囲碁が子供、経営者、シニアにとって有効であることが社会の常識になっている。

行動-8 囲碁の研究を深め、データの蓄積～人工知能・科学との融合

- (1) 棋士の育成手法に関するリサーチを強化して、人工知能を組み合わせた、指導法を確立する。
 - ・「Deep Zen Go」との協同
- (2) 教育、医療、家族・地域の絆など、囲碁の多面的な魅力と効用を主に子供、成人・シニアに分けて研究し、海外研究機関とも連携・アピールする。
 - ・子供にとって囲碁による情操面、頭脳面での効能
 - ・囲碁と学業成績との相関性実証調査
- (3) 大学における囲碁講座、囲碁のビジネス書発刊を通して、囲碁のもたらす戦略的発想など、ビジネスへの活動分析を深める。
 - ・大学正課授業導入拡大、企業での社員囲碁講座導入の推進
- (4) シニア向けの研究を強化する(絆づくり、アルツハイマー研究、認知症研究)

〈100周年の姿〉 地域定住棋士と地域拠点が連携し地域を盛り上げている。

行動-9 地方の普及盛り上げと地域の活性化

- (1) 日本棋院の地域普及の柱
 - ・地域定住棋士制度の創設検討
 - ・独立採算制が可能なブロック制検討 ⇒ 九州本部での検討
- (2) 本部・県連・支部活性化と普及の拡大
 - ・県本部・県連と連携し普及強化(棋士派遣等)を行い支部組織の活性化
 - ・囲碁愛好家の底辺拡大のため「入門・初心者」会員の継続的拡充
 - ・常務理事による地域アカウント体制の継続検討
 - ・支部代表者懇談会を捉えた支部等意見の課題対応
- (3) 「囲碁祭り」のような地方自治体との強化体制を図りながら、地域の囲碁活性化を図る。
 - ・平塚囲碁祭り、川越囲碁祭り、徳川家康囲碁祭りin静岡などの拡大
 - ・日本棋院主催、後援大会等の積極的支援
 - ・囲碁サミット加盟市町村並びに 県本部等を中心とした地方自治体との体制強化を行い、地域の囲碁活性化を図る。⇒市長・教育長へのアプローチによる囲碁大会、学校授業拡大。地域の絆作りに囲碁を積極的に提案
 - ・震災復興祈念囲碁イベント支援の継続実施

〈100周年の姿〉ファンを尊重し、棋士、職員、囲碁関係者が一緒になって囲碁界を盛り上げている。

行動-10 囲碁ファンの声を尊重し、100周年に向け発展を！

- ・9路盤、13路盤のスマホアプリの拡充 ⇒ 13路盤プロ・アマ戦
- ・トライボードイアン(囲碁、将棋、オセロ)選手権
- ・ファンに親しみやすい囲碁をモチーフとしたキャラクター採用によるホームページ、雑誌、新聞等への活用。